

稲沢市橋梁長寿命化修繕計画



宮浦橋

平成 23 年 3 月

稲沢市 建設部 土木課

み だ し

1 長寿命化修繕計画の目的

- (1) 背景
- (2) 目的
- (3) 方針

2 長寿命化修繕計画の対象橋梁（対象橋梁の概要）

- (1) 計画対象橋梁
- (2) 橋梁の構成
- (3) 橋梁の年齢

3 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

- (1) 健全度の把握に関する基本的な方針
- (2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

4 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

5 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

6 長寿命化修繕計画による効果

1 長寿命化修繕計画の目的

(1) 背景

国土交通省では、地方自治体が管理している 13 万箇所を超える道路橋の老朽化等に伴う損傷の早期発見とその補修を行うため、平成 19 年度に「長寿命化修繕計画策定事業費補助制度」を創設した。この制度は「長寿命化修繕計画」の策定に要する費用の一部を国が補助するもので、橋梁に著しい損傷が発生してから修繕・架替を行うこれまでの方法から、今後は損傷が軽微なうちに補修し、計画的な架替を行う方法への転換を促すことを目的としている。

愛知県においても、平成 17 年度に「社会資本長寿命化基本計画」を策定し、予防的修繕に取り組むため、平成 19 年度から 5 年間を目標に全橋梁の点検を実施中である。

全国的に見て、建設後相当の期間を経過した橋梁を含む社会資本は増大する傾向にあり、老朽化に伴う障害事例が見受けられる状況となっている。

稲沢市の橋梁の多くは高度経済成長期以降において整備され、今後、高齢化の進行が予想されている。こうした状況の下、今までのような事後的な修繕および架替では更新コストが増大し、社会資本関連の予算削減により市の財政状況が厳しくなっている昨今の状況では、適切な維持管理の継続に振り分ける予算の確保が困難となる可能性がある。

(2) 目的

上記の背景のもと、今後急速に増大する高齢化した橋梁の維持管理に対応するため、従来型の事後的な修繕・架替から予防的な修繕・計画的な架替へと円滑な政策転換を図る必要がある。

このため、橋梁の長寿命化及び橋梁の修繕・架替にかかるコストの縮減を図りつつ、地域の道路網の安全性・信頼性を確保することを目的とした。

(3) 方針

長寿命化修繕計画は、橋梁定期点検結果を基礎データとして用いて立案する。

計画は、重要な橋梁から優先的に実施するのが望ましいため、計画対象の橋梁を選定する必要がある。本計画の対象となる橋梁は以下の条件で選定した。

- ・ 橋長 15m 以上の橋梁
- ・ 地域の重要拠点間を結ぶ路線上に位置する橋梁

計画期間は今後 10 年間（平成 24 年度（2012 年度）～平成 33 年度（2021 年度））とした。計算処理にあたっては、愛知県の橋梁アセットマネジメントシステムを利用して、今後 100 年間のライフサイクルコストが最小となるように計画した。

2 長寿命化修繕計画の対象橋梁（対象橋梁の概況）

(1) 計画対象の橋梁数

稲沢市が管理する橋梁は 892 橋あり、そのうち計画対象の橋梁は 69 橋である。

表-2.1 計画対象橋梁数

全管理橋梁数	892 橋
うち計画対象橋梁数	69 橋
うち計画策定済橋梁数	0 橋
うち H22 計画策定橋梁数	65 橋

※ 計画対象橋梁のうち、井堀橋、陸田立橋、天王橋、本郷橋の 4 橋は架替え工事中もしくは架替え計画中のため、平成 22 年度計画策定橋梁からは除く。

(2) 橋梁の構成

平成 22 年度計画策定橋梁（65 橋）の橋種別橋梁割合は以下のとおりであり、PC 橋が 55% 占め、次いで鋼橋が 40%。残りの 5% が RC 橋となっている。

また、大気環境別の橋梁割合は、100% が平野地帯にある。

表-2.2 橋種別の橋梁数・総橋長

橋種	橋梁数	総橋長
鋼橋	26 橋	906.7 m
RC 橋	3 橋	57.3 m
PC 橋	36 橋	800.9 m
計	65 橋	1,764.9 m

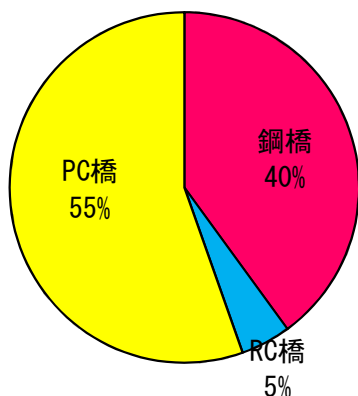


図-2.1 橋種別の橋梁割合

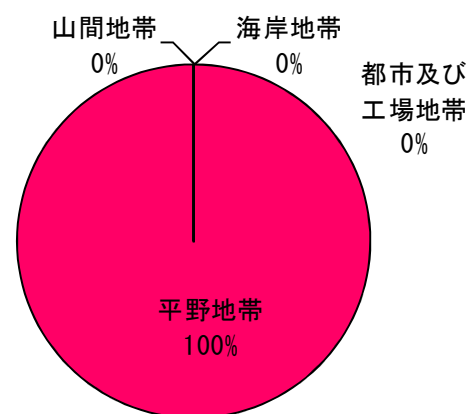


図-2.2 大気環境別の橋梁割合

(3) 橋梁の年齢

下図は、長寿命化修繕計画を策定する橋梁の供用開始年次別の橋梁数である。現時点では、架設後50年以上経過した橋梁は4橋（6%）であるが、10年後に15%、20年後に54%、30年後には80%と急激に増加する。

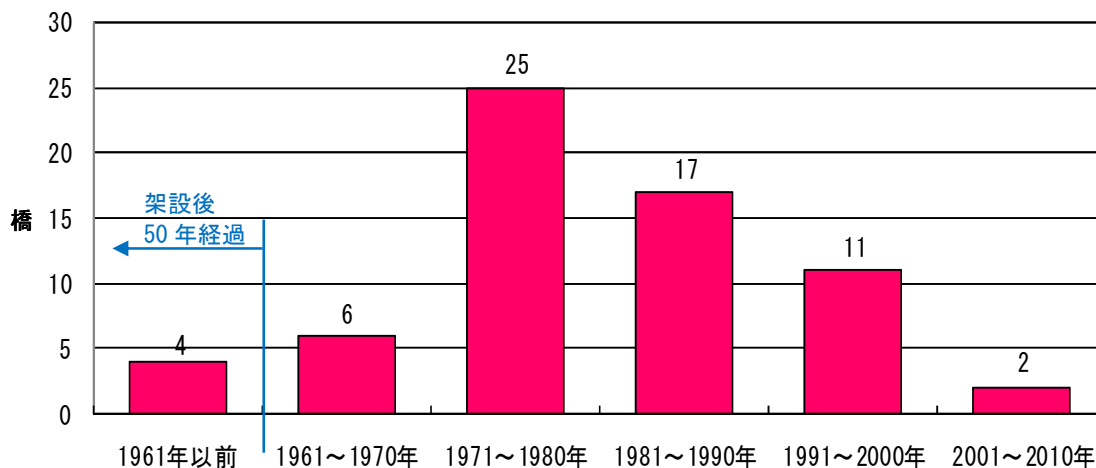


図-3.3 架設年次別の橋梁数

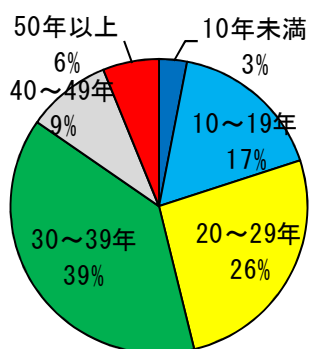


図-3.4 年齢別の橋梁割合

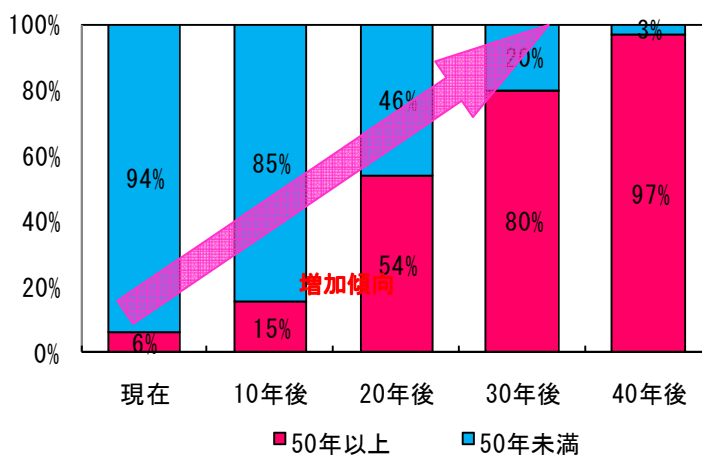


図-3.5 架設後50年以上の橋梁割合

3 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

(1) 健全度の把握に関する基本的方針

健全度の把握については、橋梁の架設年度・構造や立地条件等を十分に考慮して点検計画を立て、5年に1回の定期点検を実施する。定期点検においては、愛知県の「橋梁定期点検要領(案)」に基づいて実施し、橋梁の損傷を早期に把握するよう心掛ける。

橋梁定期点検要領(案)では、部材単位で細かく点検し、損傷の程度等に基づき対策の必要性を表-3.1に示すように判定している。

損傷が発見された橋梁については市職員が現地を確認し、道路の安全管理に万全を期す。また、日頃から維持管理の技術向上に努める。

表-3.1 定期点検における橋梁の対策の必要性

区分	内容
A	補修を行う必要がない。
B	状況に応じて補修を行う。
C	次回の定期点検までに補修を行う必要がある。
E	まず緊急対応が必要で、その後必要に応じて詳細調査を行い、損傷原因等を明らかにした上で補修を検討する。
S	詳細調査により損傷原因等を明らかにした上で補修を検討する。
※1	点検時に清掃する。
※2	維持作業で対応する。

写真-3.1 職員及び専門業者による点検



写真-3.2 専門業者による点検



(2) 日常的な維持管理に関する基本的方針

橋梁の保全を図るため、日常的な点検として道路パトロールを実施する。

道路パトロールでは、パトロールカーで走行しながら目視点検を行い、異常が疑われる箇所については徒歩による目視点検を行う。

道路パトロールの作業フローを以下に示す。

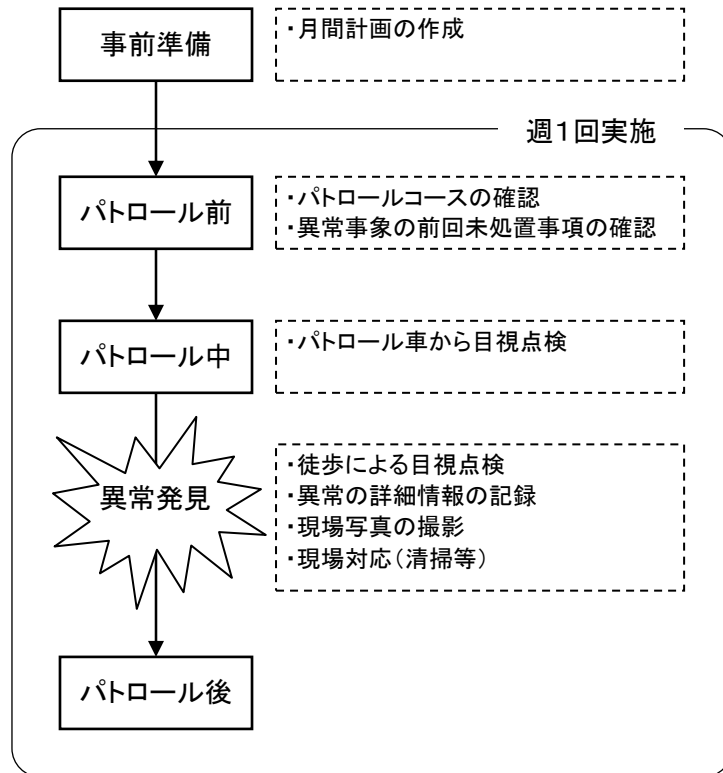


図-3.1 道路パトロール実施フロー

異常を発見した際、道路上の落下物等、現場において対応が可能であるものについてはその場で対応する。橋梁において排水の目詰まりや土砂堆積等が発見した際には、必要に応じて堆積土砂の除去等を実施する。

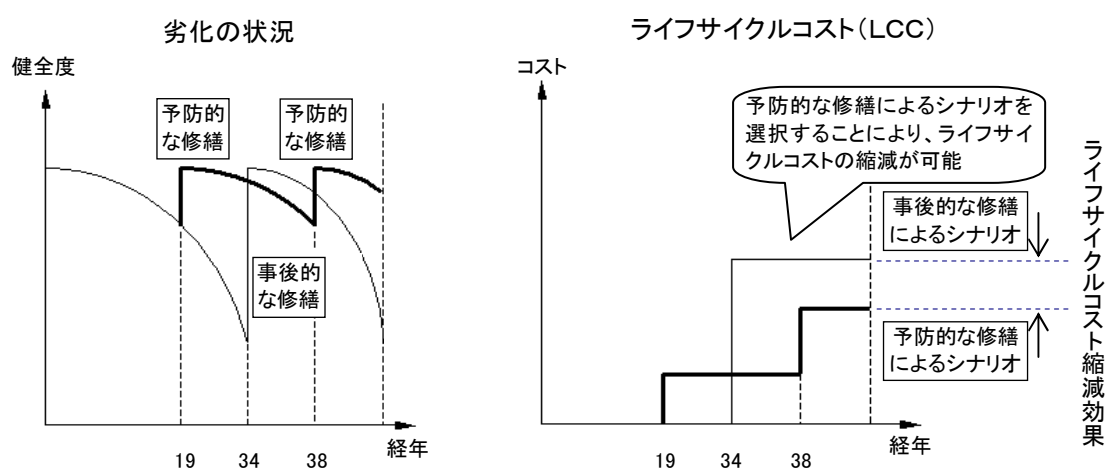
道路パトロールにおける橋梁に関する目視点検項目を下表に示す。

表-3.2 橋梁に関する点検項目

点検項目	確認内容
破損	対象のサイズ(縦×横(m))、個数
腐食	
剥離	
鉄筋露出	
ボルト外れ・ゆるみ	個数
落書き	対象のサイズ(縦×横(m))、個数
接合部の段差	
土砂堆積	
排水不良	個数
その他	

4 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

日常の道路パトロールの中で清掃等を実施し、橋梁定期点検の中で損傷の度合いおよび対策の必要性を定めるとともに、従来の事後的な修繕から予防的な修繕等の実施へ移行し、コストが掛かる架替えを極力なくすことにより、橋梁の長寿命化を目指す。また、長寿命化を適切に計画することにより、修繕・架替えに係る事業費の大規模化および高コスト化を回避し、ライフサイクルコスト（LCC）の縮減を図る。



修繕種別	工法(例)	実施サイクル
予防的な修繕	塗装塗替え(ふっ素)+3種ケレン	19年毎
事後的な修繕	塗装塗替え(ふっ素)+1種ケレン+当て板補修	34年毎

図-4.1 ライフサイクルコスト（LCC）と劣化予測の関連イメージ

5 長寿命化修繕計画による効果

以上の長寿命化に係わる基本方針に基づき作成した今後 100 年間の長寿命化修繕計画の効果を以下に示す。

① トータルコストの縮減効果

橋梁に著しい損傷が発生してから補修する場合（事後保全タイプの補修）、定期的に点検を実施し損傷が軽微なうちに補修する場合（予防保全タイプの補修）の2タイプのコスト比較を実施した。

平成 21 年度に点検した橋梁 65 橋を対象とした場合、今後 100 年間の維持費は事後保全タイプの約 41.1 億円から、予防保全タイプの約 22.3 億円となり、約 18.8 億円（約 45.7%）の縮減が見込まれる。

② 補修費を平準化した場合の年間予算額

計画策定橋梁（65 橋）における今後 100 年間の予防保全タイプの補修費約 22.3 億円を 100 年で単純に平準化した場合、約 22.3 百万円/年となる。

この補修費を全管理橋梁（892 橋）で比例配分した場合、約 306 百万円/年の補修費が必要となる。

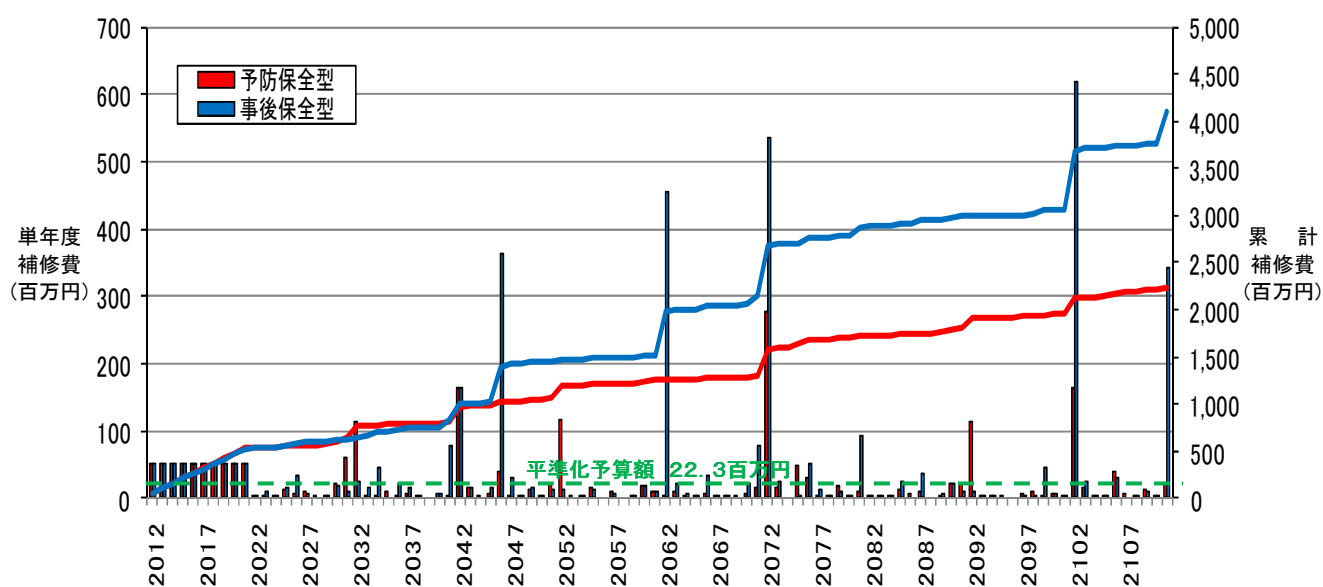


図-5.1 計画による効果